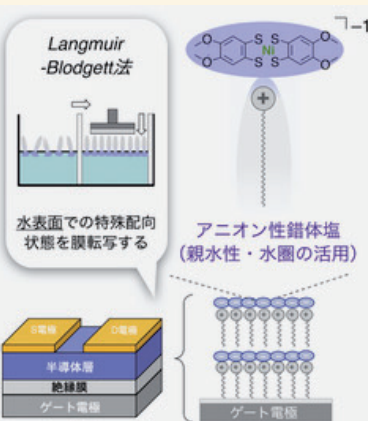


ニッケル錯体塩の水圏での自己組織化を利用したアンバイポーラー電荷輸送性薄膜の開発



藤野 智子
東京大学
助教

水圏の活用により、ニッケル錯体を用いた高移動性のホール・電子輸送性（アンバイポーラー）材料を開発します。ニッケル錯体は、単分子量アンバイポーラー型材料のための厳しい電子的要請を満たす稀有な材料ですが、薄膜化が困難とされてきました。本研究では、ニッケル錯体の合成前駆体が親水性のアニオン塩であることに着目



し、水圏での広範囲塗布化による高移動性薄膜の実現を目指します。さらに対カチオン種の交換によってベシクルなどの構造体を構築し、水中での特異な電子機能性を見出します。